

TEL 233 340 000
FAX 224 313 684
Email Jschool @volny.cz

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び 共に学ぶ 豊かな心と国際性あふれる たくましい児童生徒の育成」

目指す子ども像

「かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子」

卒業式 式辞

校長 齊藤 仁

(3月17日卒業式の式辞)

プラハにも春の訪れが感じられる本日、在チェコ日本国大使館特命全権大使山川鉄郎様をはじめといたしまして多数のご来賓のご臨席を賜り、第35回卒業証書授与式をこのように盛大に挙げていきますことに心よりお礼申し上げます。また、今日まで卒業生を慈しみ育てこられたご家族の皆様、心からのお祝いとお慶びを申し上げます。また、本校の教育活動へのご理解、ご協力をいただきましたことに対しましても、心より感謝申し上げます。今日の佳き日を皆様とともに迎えられることに私どもは大きな喜びを感じております。

11名の小学部卒業生の皆さん、そして4名の中学部卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、手にしている卒業証書は、皆さんがこの6年間と9年間で学んだこと、成長したことを証明するものであると同時に、家族の方々、皆さんに関わってきたすべての方々の願いや思い、期待がこめられたものでもあります。自分自身の晴れ晴れとした誇らしい気持ちに加えて、これまで様々な場所で自分を守り育ててくれた方々、自分を支えていただいた方々を思いおこし、感謝の気持ちをしっかりと伝えてほしいと思います。

時は流れ、人を待たず。月日はあっという間に過ぎ去り、今日を迎えることになったのではないのでしょうか。4月の入学式始業式で「三つの出会い」という話をしました。プラハ日本人学校での仲間や先生との出会い、チェコという国との出会い、そして最後が自分との出会いです。プラハ日本人学校の卒業式は、ひとりひとりが自分の学校生活を振り返ることができる素敵な卒業式です。今日のこの時間、みんなでプラハでの生活を思い出し、三つの出会いについて思いを巡らしてほし

いと思います。そしてこれらの出会いが皆さんを大きく成長させたことを改めて今日確認してください。

さて、最後に皆さんに向けて贈るはなむけの言葉は、「挑戦と自信」です。この言葉は、2学期の始業式の時に皆さんにすでにお伝えしました。皆さんの学校の活動の中で、皆さんは、挑戦のたびに悩み、苦しみ、そして何かを手に入れ、自分には何かができるという自信を一つ一つ手に入れました。挑戦と自信という言葉は、2つが組み合わせあって初めてひとつの意味を成す言葉だと思います。挑戦なき自信は、ただの思い上がり、自信過剰でしかないし、自信なき挑戦は夢や希望を生み出すことはありません。何かに挑戦すれば、最初は絶対にうまくいかない。自信はうちくだかれてしまう。でも、ひたむきに、課題に真正面から向き合い、自分の可能性を信じ、ひたすら努力し、全力をつくしてください。そうして、何かを達成したとき、本物の自信が自分の中においてくることを皆さんは経験しているはずです。こうしてわいてきた自信は、他人との比較や他人からの評価をあてにすることなく、自らの考え、感性を信じ、前へ前へと突き進む原動力になると信じます。でも、迷った時には、ここプラハ日本人学校での三つの出会いを思い出してください。迷ったときには、必ず誰かがいる。誰かににたずねたり、誰かの話に耳を澄ましたり、あるいは本の中に答えが見つかったりします。出会いを大切にすれば、迷いもやがて自信となり、確かなものとなるはずです。

最後に、卒業生の皆さんの新たなる旅立ちに、限らない発展とご健康、そして幸多かれと祈念し、式辞といたします。

◇平成27年度 プラハ日本人学校卒業生

小学部児童 岡本 さん 川端 さん キトラー さん
白石 さん 芹沢 さん 松田 さん
丸山 さん 村瀬 さん 山田 さん
佐藤 さん 清水 さん 11名
中学部生徒 飯塚 さん 澤野 さん 平崎 さん
三田 さん 4名

◇転出児童生徒の紹介

小学部1年 泉 さん 小学部1年 内藤 さん
小学部1年 三浦 さん 小学部2年 石河 さん
小学部2年 岡本 さん 小学部2年 川口 さん
小学部2年 三浦 さん 小学部3年 泉 さん
小学部3年 片山 さん 小学部3年 白石 さん
小学部3年 中川 さん 小学部4年 小幡 さん
小学部5年 内藤 さん 中学部1年 小笠原 さん
中学部2年 小幡 さん 中学部2年 平崎 さん

春休み工事のお知らせ

春休み中の英会話教室
終了後、3教室の床の張
り替え工事を行います。
4月にはきれいな教室に
なる予定です。

帰国を前にして 離任者からのお別れの言葉

今年度は、5名の派遣教員がプラハ日本人学校を去ることになりました。派遣教員からのお別れの言葉です。



教頭 新谷 太郎

プラハ日本人学校での3年間は、本当に楽しく、充実した毎日を送ることができました。いつも笑顔で頑張っている小学生、中学生との出会いから、毎日やる気とエネルギーをもらえました。また、保護者、関係機関の方々を支えられ、プラハ日本人学校が安全で充実した学校になっていくことも実感できました。今後は、ここでの経験を日本の子供たちに伝えていきます。3年間、ありがとうございました。

教諭 上園 悦史

これからの自分を変えるためには、まず、現在の自分から変えていくこと。そんな気持ちで海外の日本人学校への派遣を希望しました。ここでしか学ぶことができないチェコの歴史・文化・芸術に触れ、子どもたちと共に学んだ経験はこれからの自分を変えていく貴重な経験になりました。3年間、本当にありがとうございました。

教諭 木全 恵美子

いにしへの、でも未来の開けた新しいまち(都)プラハで3年間。縁あってみなさんと出会い過ごしたことをうれしく心から感謝しています。エネルギーで好奇心強く、心優しい子どもたちでした。そして、いつもあたたかく教室を支え見守って下さいました保護者のみなさま、ありがとうございました。

教諭 中川 鎮孝

「夢に向かって今を生きる」。私が教師になってから子どもたちに常に伝えている言葉です。このプラハ日本人学校で子どもたちと共に過ごしたことが、自分にとっての「夢」であり、常に一日一日が大切な、「今を生きる」毎日でした。プラハ日本人学校の子どもたちも、常に前向きで、努力し続けられる力を私たちにを見せてくれました。このプラハ日本人学校の子供たちが、これからも自分独自の「夢」をもち、それに向かって今の日々を大切にしていけることを願っています。今まで本当にお世話になりました。

教諭 益野 可奈子

みんなが考えた理科の実験を一緒にするときや、児童生徒会で学校行事を一緒に作っていくときのことが心に残っています。一番楽しかったのは、普段の何気ない会話かも知れませんが。思い出は形になりませんが、自分の心の中のお風呂のようなもので、たまに自分がそこに浸って、疲れをとるようなものだと思っています。そんな思い出をくれたみなさんに感謝しています。ありがとう。